

取組名称	造園の廃材を活用した、新たな街の魅力と創造			団体設立後の経過年数	42年
応募取組主体名称	熊本県立北稜高等学校 造園科	活動地域	熊本県など	応募取組の活動年数	11年
取組主体の種別	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね30代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
応募取組に関連する実行委員会特別賞	サステナブルデザイン賞 / 子どもエンパワーメント賞 / 環境と福祉賞 / 環境地域ブランディング賞 / 環境ひとづくり賞 / 環境社会イノベーション賞 / 地球と人への想いやり賞 / SDGsビジネス賞 / EXPO2025 いのち動的平衡賞				



取組の要旨

造園では庭園施工で竹や木材、庭園管理で樹木の剪定くずが必ず発生します。そこで、その廃材（木材・竹）を利用して、県内外から来られる方へ向けた玉名市の風景をイメージ（縮景）したおもてなしの箱庭製作や、地域の小中学生とお正月の門松の製作交流会の開催、地域の祭りで使用した竹を再活用し、地域の幼児と流しそうめんによる食育・環境地域交流を行い、環境を活かした造園の魅力を発信しました。またその他に剪定くずをチップ化し、剪定くずを利用したキノコ菌床栽培を行い、キノコや栽培キットの販売を行いました。その後の廃菌床は腐葉土化し、植物用土として活用。育てた苗を活用して廃材を活用した苔玉製作の研究や地域へワークショップを行い、造園の資源循環に取り組みました。

実績の要旨

造園では、必ず廃材が発生し、そのほとんどの廃棄物が焼却処分されます。年々処分料金は上昇しており、造園会社においても環境面や経営面から課題となっています。樹木の焼却はカーボンニュートラルであるため二酸化炭素の排出量としては集計されていませんが、消却によって温室効果ガスの発生に繋がります。そこで、どうにかできないかと考え、剪定くずを利用したキノコ栽培や廃菌床を活用した苔玉製作、地域の祭りでの箱庭製作や、伝統行事の門松製作、地域の幼稚園や小中学校との環境教育交流などの様々な活動を行ったことで、造園の廃材を減らし、商品開発・製作などをとおして地域を盛り上げ、資源循環も行うことができました。

取組評価の要旨	環境への貢献	学校の廃材だけでなく、地域の造園会社の剪定くずや地域の祭りの廃材を再活用して、地域との交流会を行った事で、廃材を減らし、環境負担を軽減できた。
	社会・経済への貢献	地域の祭りで、地域の縮景を活かした箱庭製作を行い、市役所と祭り会場に展示したことで県内外の方々に楽しんでいただいた。
	地域資源の活用	学校だけでなく、地域の造園会社も協力してもらい、企業の剪定くずも活用してキノコ栽培や廃菌床の用土作りし、苔玉製作を行い、造園の資源循環を行った。
	普及・汎用性	造園分野において樹木管理で発生する廃材問題は大きく課題であるが、再活用することで、費用面での負担を減らし、収入が増えれば、良いモデルになると考察する
	革新・ユニーク性	本来捨てるはずのものがキノコや苔玉などの魅力ある物に生まれ変わる事で地域の新たな商品となりつつある。
	継続性	今後も本校の廃材だけでなく、地域の造園会社の廃材を受け入れて、地域の祭りなどの伝統を守りつつ、環境負担も減らし、更なる協力関係や生産性の向上を目指す。

展望の要旨

「玉名」の地域の取り組みを広げ、多くの方が、造園を楽しんでいただき、造園をとおして魅力ある町にできるように挑戦していきます。